

■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

学校 教育 目標	中期経営目標 (2つの数字は経営方針の番号)	短期経営目標	具体的な方策	評価指標	当初	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価	
						中間評価	最終評価				
かしこく	○教員の資 質向上 (②)	■①授業を支える授業規律を身に付けさせる。	○授業開始と終了時のあいさつを学年で統一し、指導する。 ○「発言をするときは、挙手をし、指名されたら『はい』と返事をし、起立して」発言をさせる。語尾まで、しっかりと言うことを指導する。 ○児童が発言しているときは「話し方のかきくけこ」「聞き方のあいさつ」を意識させる。 ○休み時間の過ごし方「①次の学習の準備②トイレ・水のみ③教室移動」のルールをクラス掲示で全校に指導していく。	A 身に付いた児童が80%以上 B 身に付いた児童が70%以上80%未満 C 身に付いた児童が70%未満	65%	C					
		②学年配当の漢字の読み書きを身に付けた児童を育成する。	○漢字指導の際、成り立ちや使い方、関連して一度に覚えた方がよいものについて教師が意図的に指導し、漢字学習への興味を高めさせる。 ○小テストなどで合格基準を設定してうえで成果確認をし、結果に応じて家庭学習をさせるなど、繰り返し練習させる。 ○朝学習の時間、家庭学習の機会に、復習を取り入れる。	A クラスの8割以上の人数が成果確認問題の合格基準を達成 B クラスの6割以上8割未満の人数が、成果確認問題の合格基準を達成 C 成果確認問題の合格基準を達成した児童が、クラスの4割以下の人数							
		③それぞれの学年で学習する計算技能を身に付けた児童を育成する。	○計算技能を身に付けさせる指導をする際、生活場面等の事象を通して計算の必要性をもたせたり、計算の方法や意味理解について説明させたりするなど、教師が意図的に指導し、計算への意欲を高めさせる。 ○小テストなどで合格基準を設定してうえで成果確認をし、結果に応じて家庭学習をさせるなど、繰り返し練習させる。 ○朝学習の時間、家庭学習の機会に、復習を取り入れる。	A クラスの8割以上の人数が成果確認問題の合格基準を達成 B クラスの6割以上8割未満の人数が、成果確認問題の合格基準を達成 C 成果確認問題の合格基準を達成した児童が、クラスの4割以下の人数							
		■④意欲的に学習する児童を育成する。	○「学ぶ価値があり 学びの喜びがわくもの」という視点で教材を吟味・選定したり、地域素材を教材化したりするなど、体験的な活動も重視しながら、教材の精選・開発をしていく。 ○ほめる、認める、価値付けるなどをして、自己肯定感をもたせたり、満足感・成就感をもてるような適切な助言・発問を工夫する。 ○子供同士のコミュニケーションが活発で、いざというとき認め、失敗や温かく見守ることができる、学び合いにふさわしい学級の雰囲気づくりが努める。	A 児童の自己評価と、担任のみより(発言・提出物・ノート・態度等)により、クラスの8割以上の人数が、意欲的に学習に取り組んでいる。 B 児童の自己評価と、担任のみより(発言・提出物・ノート・態度等)により、クラスの6割以上8割未満の人数が、意欲的に学習に取り組んでいる。 A 児童の自己評価と、担任のみより(発言・提出物・ノート・態度等)により、クラスで意欲的に学習に取り組んでいる人数が4割以下。	73%	B					
やさしく	○人権教育の充実 (①) ○道徳教育の充実 (⑤)	■⑤仲間外れや相手の嫌がる言葉遣いなどのいじめをしない児童を育成する。	○年3回「いじめアンケート」を実施し、聞き取りを丁寧に行い、教職員で予防策・早期発見に努める。 ○ふれあい月間の機会を生かし、DVD教材等を活用し、自分や他の命を大切にしようとする児童の態度を育てる。 ○5年生とスクールカウンセラーの全員面談を実施し、心配な児童には改めて個別対応する。可能な限り給食交流も行う。 ○毎学期の担任と全員面談の際には、空套関係についても丁寧に聞き、いじめにつながるような案件には早期対応を心掛ける。	A 把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が0 B 把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が3件未満 C 把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が3件以上	調査中						
		■⑥自分を大切に、自分に自信がもてる児童を育成する。	○自尊感情調査を実施し、特に数字の低い児童においてはそれぞれにあった自信の持ちせ方を教職員で共有する。 ○学期一回の担任による全員面談の際、児童の長所を一人一人伝えることで自己肯定感を高めさせる。 ○特別活動部との連携により、児童の様々な表現活動を交流する場を設けたり、鑑別り班活動でリーダーから下学年を励ましたりするなどして、児童相互のよさを認め合う指導をする。 ○日頃から、保護者と密に連絡を取り合い、児童のよさや、つまずきを共有し、「励ますポイント」を共有して児童に自信をもたせるようにする。 ○教室での様子や授業中の発言には、価値付けをするような褒め言葉を	A 自己受容評価1点台の児童が全校児童の5%未満 B 自己受容評価1点台の児童が5%以上10%未満 C 自己受容評価1点台の児童が10%以上	4%	A					
		■⑦うれしかった先生や外部の方に、場に応じた(明るく元気に・一度あいさつした人には黙礼など)挨拶ができる児童を育成する。	○児童が主体的に取り組めるような「あいさつ宣言」を作成し、校内に掲示して、あいさつについての自覚を高めさせる。 ○校長講話であいさつに特化した話をする。特に高学年の自覚を促す。 ○朝会時、6年生代表児が「一声とあいさつ声掛け」をし、全校児童に範を示す。(例:「もうすぐ運動会です。頑張りますよ。おはようございます。」) ○生活指導月目標で重点化し、あいさつ運動の取り組み。 ○1~4年生、5・6年生の発達段階により、TPOに応じたあいさつができるように指導する。(例:黙礼、追い越し時のあいさつ) ○教職員が自ら範を示す。	A 90%以上の児童が身に付いている B 80%以上90%未満の児童が身に付いている C 身に付いている児童が80%未満	66%	C					
げんきよく	○心と体の健康教育の充実 (④)	⑧基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。	○毎日の外遊びを励行するとともに、元気アップタイム、短時間月の取り組みを充実させる。 ○東京都の体力テストの結果を分析し、とくに苦手な種目について、特化した改善への取り組みを実施する。	A 元気アップタイムや短時間月の取り組みに意欲的に取り組んでいる児童が90%以上 B 元気アップタイムや短時間月の取り組みに意欲的に取り組んでいる児童が70%以上90%未満 C 元気アップタイムや短時間月の取り組みに意欲的に取り組んでいる児童が70%未満							
		■⑨好き嫌いをしないで給食を食べる児童を育成する。	○校長講話などで、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発をする。 ○発達段階により、黙って食べる「もぐもぐタイム」や、「完食ルール」発行などの、具体的に取り組みを実施する。 ○給食指導目標を基に、各学級で声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○給食週間を各学期1回設定し、特にその期間は、食への興味を高め、残菜を減らせるような声かけを担当する。	A 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%以上 B 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%以上80%未満 C 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%未満	78%	B					

達成状況の指標 各項目の評価指標を参照